



主任コラム6月号



主任 澤井 良子

6月に入り園庭で身体を動かす事や、砂遊びや虫探しなど戸外で遊ぶ事が楽しい季節になってきました。もうすぐ梅雨に入りますが、梅雨ならではの遊びや自然の「ふしぎ」を探したりと子ども達と一緒に楽しんでいきたいと思ひます。

各クラスにはコーナーがあります。コーナーとは、登園してきた子ども達が「どこで」「どのように」「だれと」「どのような遊び・生活・関わりをするのか」から選択をします。例えば、おままごと（幼児クラスだと表現コーナー）、絵本、ブロック、パズル、製作、ゲームなどのコーナーがありますが、その中でも幼児クラスには『ピーステーブル』というのがあります。昨年度も数回、今の1年生が年長児だった頃に使っていたのを見かけましたが、ピーステーブルとは、子どもたちの間にケンカが生じた場合に、子ども同士で話し合い、自分達の思ひを伝え解決できるような場所の事です。

先日、年中のS君、年長児のH君との間にあった出来事です。S君は虫が大好きで、その日は、登園後にオニヤンマ（トンボ）を捕まえて虫かごに入れその場を離れました。その間、オニヤンマに興味を示した子が集まり見ていました。そこにいた子からは「虫かごだと息できやんから可愛そう」という意見が出て、賛同をしたH君は、オニヤンマをこのまま入れておくのは可哀想だと思ひ逃がしてしまいました。いいことをしたと思ひH君はI先生に報告にいきました。しかし、同じ年長児のB君のだと思ひていたその虫は、実はS君のだったとI先生から聞きH君は涙目になってしまいました。そこに戻ってきたS君が、自分が見つけて大事にしていたオニヤンマを逃がされてしまったことを知り、泣き出しました。幼児棟の先生達はS君の気持ちも、H君の気持ちも言い分も分かりますが、お互いの思ひを当人同士が話したほうがいいと思ひピーステーブルに誘いました。2人は席に座ると話し始め、周りでは数人の子も見ていました。

S君「なんで逃がしたん。勝手に逃がされたらH君はどんな気持ちになるの？勝手に逃がすのは泥棒と一緒にやで」

H君「・・・・・・・・・・」

年長の女の子「でもさ、虫かごに入れたら、息できやんやん。かわいそうやで逃がしてあげたん」

S君「虫かごは、線みたいになっとるし、息できやんくないし」

H君「・・・・・・・・・・」

S君「今から園庭行って、捕まえられやんだら許さんでな」

やりとりを見ていた保育士が「H君の思ひも伝えたほうがいいよ」と間に入りますが、H君にはS君の大事にしていた思ひや、滅多に捕まえられる物ではないことが分かる為、思ひを言葉にすることが出来ずにいました。保育士には、S君が怒る気持ちも分かる為、保育士はお互いの気持ちを伝えました。

子ども達の喧嘩には、それぞれお互いの思ひがあります。大人が解決すること、判別をすることはできますが、それで子ども達は納得できるのでしょうか。幼児クラスになると自分の思ひを相手に伝えるという事、これから生きてく上で必要な成長過程です。個々の性格もあると思ひますが、このピーステーブルでは相手を責めるのではなく、対話をする中で自分の思ひを伝え相手の思ひを知るということが大事なのではと思ひます。何か思ひに行き違ひが生じた時に、子ども達が自分達で「ここで話そう」と言える場所になるように、私たちも見守り、環境を作っていきたいと思ひます。